

特集

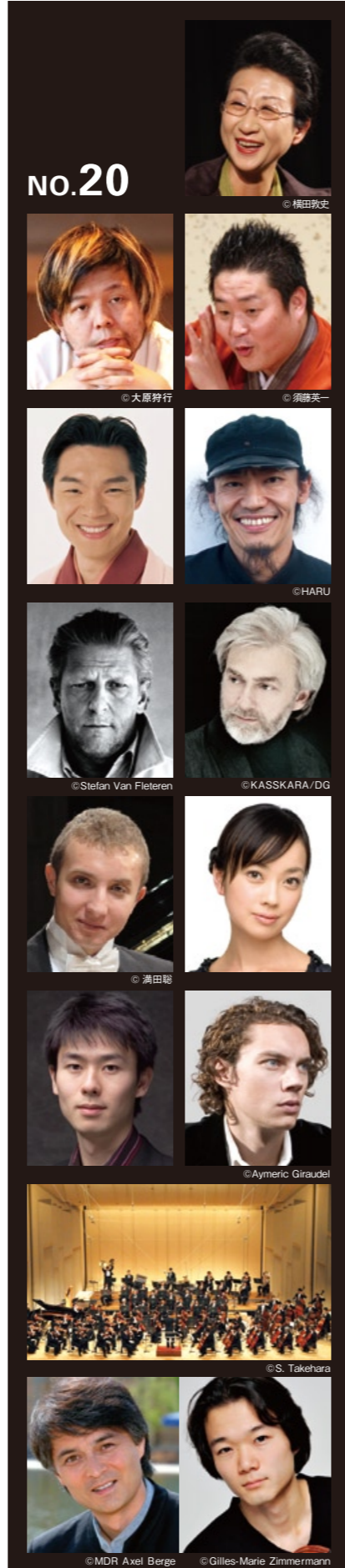
蜷川幸雄が語る「彩の国さいたま芸術劇場開館15周年」



INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.20 Mar.-Apr.

- ESSAY** 03 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』
松井今朝子
- TOPIC** 04 **蜷川幸雄** 彩の国さいたま芸術劇場開館15周年を語る
- PLAY** 07 **ケラリーノ・サンドロヴィッチ vs さいたまゴールド・シアター**
- PLAY** 08 **彩の国さいたま寄席**
- DANCE** 10 **近藤良平**『白と黒のナイフ』
- DANCE** 12 **ヤン・ファール**『寛容のオルギア』
- MUSIC** 14 **クリスチャン・ツイメルマン** インタビュー
- MUSIC** 16 **ピアノ・エトワール・シリーズ2009**
Vol.9 アレクサンダー・ガヴリリュク
Vol.10 三浦友理枝 Vol.11 福間洸太郎
Vol.12 フランチェスコ・トリストアーノ・シュリメ
- MUSIC** 18 **NHK 交響楽団**
準・メルクル (指揮) **佐藤俊介** (ヴァイオリン)
- 20 **EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION**
イベント・カレンダー 2009.3.15-2009.5.31
前売りチケット発売情報(～2009.5.16)
発売中公演情報
- 23 **THEATER BRIDGE**
公演レビュー、募集など劇場からのご案内



【演出】蜷川幸雄 (作) W・シェイクスピア (脚訳) 松井今朝子
【出演】唐沢寿明 田中裕子 横田栄司 長谷川博己 藤田弓子 大平直政 遠川哲朗 ほか
1月15日(水)～2月1日(日) 全18公演

まついけさこは1953年京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科演劇学修士課程修了後、松竹に入社。歌舞伎の企画・制作に携わる。同社退職後、故・武智鉄二に師事して、歌舞伎の脚色・演出・評論を手がける一方、歌舞伎入門書の監修にも積極的に取り組む。97年「東洲じゃらくさ」で小説家デビュー。同年「仲蔵狂乱」で第8回時代小説大賞。2007年「吉原手引草」第137回本賞を受賞。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』1月15日公演より

松井今朝子

小説を書く前は長らく演劇の仕事に関係していて、劇場によく足を運んでいるが、仕事を離れた今も私が舞台を覗きにいられない理由は何なのか、改めてそれに素晴らしい回答を与えてくれたのが蜷川演出の『冬物語』だ。

数あるシェイクスピア作品の中でも決して名作とはいいがたく、戯曲だけを読めば荒唐無稽なストーリーに躓いてしまうこのドラマに、私はラストで涙を禁じ得ない自分にまず驚いていた。そしてそこそがまさに舞台のもたらす「奇跡」だと感じたのである。

突如として狂気のごとき嫉妬にかられるシチリア王。いわれなき不貞の嫌疑によって命を絶たれた高潔な王妃。一族はひとたび離散し、破滅するが、十六年の「時」がすべてを元通りにしてくれる。死んだ王妃に生き写しの石像が、人びとの「信じる力」によって、徐々に動きだした瞬間、むしろそれが役者の演じる姿だと重々承知の上で、私は劇中の人物たちと同様そこに類い稀な「奇跡」を認めて、ぞくぞくと身がふるえた。「奇跡」を起こしたのは女優田中裕子の存在感と、照明や音楽すべてを含めた演出のマジックであることはいままでもない。いっぽうで常軌を逸した王の苦しみを一貫して等身大に描き出した唐沢寿明の優れた演技が「奇跡」にリアリティーを与えていたのも逸してはならない。

舞台では時として「文学」の及ばない「奇跡」の瞬間がある。私はその一瞬が味わいたくて今でも劇場に足を運ぶのである。

YUKIO NINAGAWA
interview

次世代へ いい形で橋渡しするために

大ホールで『冬物語』が上演中の1月下旬、演出家・蜷川幸雄は、秋の公演のためのオーディションに応募した約1200人にもおよぶ若者たちと会っていた。さらに来春の公演にも思いを馳せる。そして芸術監督・蜷川幸雄は直筆で小澤征爾さんに埼玉に来てくださいと手紙を出し、指揮を直訴したと言う。彩の国さいたま芸術劇場開館15周年を迎え、蜷川の活動はますます色濃く展開されていく。



47年前の記念碑的作品を どうとらえるか 若者たちの演劇的想像力に 興味津々

取材・文=瀬崎久見子

— 若い俳優による新しい企画には、約1,200人もの応募が来て、その全員に演技試験をしたそうですね。

履歴書だけでは分からないからね。それにしても今の若い人って、敬語が過剰だよ(笑い)。「そんな丁寧な挨拶はいいから！」って言ったり、いろいろ工夫してオーディションした。

今回の試みが公共劇場として珍しいのは、何人を採用して、どんな集団にしてどう続けていくのか、あらかじめ決めていないことなんだ。もちろん、教育という目的はあるけれど、具体的なプランが先にあるのではなく、実際に集まった若者たちの資質を見極めて、彼らとコミュニケーションをとりながら何をするか決めていく。お役所って、事前にきっちり計画するのが普通でしょう？ 今回は逆であることが、僕にとっては結構大事なことです。

第1回公演で上演する『真田風雲録』(福田善之作・1962初演)は、日本の新劇が、ブレヒトの影響を受けて生み出した初めての戯曲だと思う。(60年安保闘争という)政治的メッセージも込められている。その時代から距離のある今、若者が演劇的想像力を働かせてこれをどう演じるかに興味がある。(オーディションに来た若者の)履歴書を見



2009年1月、若手俳優オーディション第2次選考の様子 Photo: 細野晋司

ていて、日本にはこれほど多くの劇団があるのか、とも思った。簡単に集団を作って、簡単に壊す時代。今の生き方がそのまま通用するのか、皆に考えてもらうきっかけにもなると思う。

— 開館15周年は3～4月に上演の『ムサシ』に始まり、さいたまゴールドシアターの公演(6月)と、この『真田風雲録』(10月)。さらに来年3月には『ヘンリー六世』という大作も控えています。全3部、上演時間が9時間にも及ぶ作品で、今年秋には新国立劇場も上演しますね。

鶴山仁さんが演出する新国立劇場の舞台と、勝負するつもりでやります。ケンカを売るのはないけれど、国立という「正統」と競おうかと(笑い)。歴史劇は、僕はほとんど演出していないし、長い作品で登場人物も場面も多いので、体力があるうちにやっておきたい。お勉強くさい芝居になりがちなのが歴史劇の難しさなので、きちんと人間ドラマが浮き出るようにするつもりです。翻訳は松岡和子さん、構成を河合祥一郎さんという2人体制で考えています。それも珍しいでしょう？ 2人の翻訳家に論争しながら台本を作ってもらおうつもりです。



【彩の国さいたま芸術劇場開館15周年 記念ラインアップ】 2009年4月→2010年3月

※会場は、特に表記のないものは「彩の国さいたま芸術劇場」です。

PLAY	DANCE
～ 4.19 『ムサシ』	5.23～24 コンドルズ 埼玉公演2009新作 『白と黒のナイフ』
6.18～7.1 さいたまゴールドシアター第3回公演『アンドウ家の一夜』	6.26～28 ヤン・ファーブル『寛容のオルギア』
10月 蜷川幸雄演出『真田風雲録』	9.11～13 dancetoday2009 トリプル・ビル
10年3月 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾『ヘンリー六世』	11.27～29 ローザス『ツァイトウング Zeitung』
彩の国さいたま寄席 四季彩亭(年4回予定)	10年2.6～7 池田+プラテル+ヴォルドンク 『ナイン・フィンガー Nine Finger』
源氏語り五十四帖 第49回～54回	

MUSIC	MUSIC
4.25 福井 敬 テノール・リサイタル	8.2 埼玉会館ファミリー・クラシック 『夏休みオーケストラランド!』 会場:埼玉会館
5.2 熊谷会館ファミリー・コンサート 宮川彬良&アンサンブル・ベガ 会場:熊谷会館	9.5 ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.10 三浦友理枝
5.22 クリスチャン・ツィメルマン ピアノ・リサイタル	10.3 小山実稚恵 ピアノ・リサイタル
6.21 NHK 交響楽団 準・メルクル(指揮) 佐藤俊介(ヴァイオリン) 会場:埼玉会館	10.24 村治佳織 ギター・リサイタル
6.28 ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.9 アレクサンダー・ガヴリリウク	11.28 ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.11 福岡洗太郎
7.18 バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル没後250年記念特別プログラム	12.5 レ・ヴァン・フランセ

大人の観客が増え、子どももいる 劇場にいろんな世代が集まりだした

— 演劇以外の分野はいかがですか？

実は指揮者の小澤征爾さんに手紙を書いて、12月に埼玉会館の公演(新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏会)に出てもらうことになりました。「ぜひ来て下さい」って直筆で手紙を書いたんだよ。小澤さんが来れば、皆、喜ぶだろうと思って。小澤さんとはワーグナーのオペラ『さまよえるオランダ人』の演出で一緒にしたけれど(92年)、稽古場で彼の、人間として、クリエイターとしてのすごさを実感した。合唱の練習中、指揮をしている小澤さんがだんだん合唱団に歩み寄って、



彼らの輪の中に入っていったんだ。すると歌がぐんぐん良くなった。コーラスが、小澤さんに巻き込まれるんだね。いやあ、すごいよ。

ダンスも、僕が作る演劇とはまた違った質の、欧州などの前衛的な作品を上演できていると思っています。

—15周年にあたり、公共劇場のあるべき姿をどう思いますか？

経済的に厳しい時代だけれど、それでも一定の援助を受けられるように、行政とコミュニケーションをとり、風通しを良くして共通の意識を持てるようにしたいと思う。もちろん、クリエイティブな面では自由にさせて欲しいけれど、代わりに観客動員は頑張らなければ。上演作についても考えないといけない。この劇場では、彩の国シェイクスピア・シリーズによって大人の男性や夫婦づれの観客が増えたことがうれしい。おかげで『冬物語』のような作品も完売にすることができた。一方で、昨年の『ガラスの仮面』のように、大人の言語による芝居なのに、子どもも巻き込める舞台もやっている。

あとは、劇場をいい状態にして次の世代にバトンタッチしたい。それが、ジジイの役割でしょう(笑い)。

KERA 戯曲 VS 蜷川演出+ ゴールド・シアターの妙

文=徳永京子 [演劇ライター]

昨年上演した『95kgと97kgのあいだ』が初の外部公演として今年度の「フェスティバル/トーキョー」に招へいされ、ますます話題と注目が集まるさいたまゴールド・シアター。蜷川幸雄が「世界で一番過激」と称する劇団に、待望の書き下ろし作品が提供される。劇作家はケラリーノ・サンドロヴィッチ(通称KERA)。名前はペンネームで、正体はれっきとした日本人男性。ナンセンスコメディから演劇の世界に入り、次第に不条理やミステリー、シリアスなどさまざまなジャンルに精力的に進出、いまや日本屈指の多忙で多作、しかも作品数とクオリティが反比例しない作・演出家だ。

KERAと蜷川はかねてから交流があり、対談などは行ってきたものの、共に舞台をつくる機会はこれまでなかった。07年のゴールド・シアター上演作品『船上のピクニック』(作:岩松了)をKERAが観て感動したことから今回の企画が動き出したが、この「作:ケラリーノ・サンドロヴィッチ、演出:蜷川幸雄」という顔合わせは、演劇界的にはなかなかの事件と言える。

戯曲を他の演出家はやりたがらないという事情があるのだ。この点を蜷川は当然、覚悟しており「俺にKERA 戯曲の演出ができるのか」という謙虚さと、「こんなおもしろい機会はない」という冒険心で稽古日を待っている。一方、KERAも「人数の多い群像劇はこれまで何作も書いているが、今回は勝手に違う」と気を引き締める。

昨年12月には、プロジェクトの第1歩として、蜷川があいだに入り、KERAとゴールド・シアターメンバーの顔合わせが行われた。ひとり2〜3分で、と最初に申し渡された自己紹介も、久々の書き下ろしに対する高揚感からか時間をオーバーする人が続出。そこで得た情報やインスピレーションをもとに、KERAは現在、戯曲を執筆中。蜷川も、そしてメンバーも触れる機会のなかった柔らかな感性で書かれた言葉は、ゴールド・シアターの可能性をさらに広げてくれるものになるに違いない。

Profile

ケラリーノ・サンドロヴィッチ

東京都出身。1982年、ニューウェーブ・バンド・有頂天を結成。並行して85年に劇団「健康」を旗揚げ、演劇活動を開始する。92年の解散後、翌93年に「ナイロン100℃」を始動。99年には「フローズン・ビーチ」で第43回岸田國士戯曲賞を受賞。以後、受賞多数。近年は映像分野でも活躍。近作に「ナイロン100℃」公演「シャープさんフラットさん」、KERA・MAP#005「あれから」。映画「罪とか罰とか」が公開中。

メンバーとの顔合わせから KERAの構想はますます膨らむ



まず、70代の蜷川に対してKERAは40代と世代が離れていること。KERAは演出家でもあり、これまで自作の戯曲を他の演出家に提供したことが、短編以外ではほとんどないこと。ミュージシャンでもあるKERAはせりふの音感に厳しく、また、普通の会話を微妙な間によってコメディへと転化する天才とも言われているので、その

MUSIC	
12.8	小澤征爾&新日本フィルハーモニー交響楽団 会場:埼玉会館
12.23	彩の国さいたま芸術劇場 アフタヌーン・クリスマス・コンサート
10年1.17	埼玉会館ニューイヤー・コンサート ウィーン・MARO・アンサンブル ~篠崎史紀とN響メンバーによるウィーンの調べ~ 会場:埼玉会館
10年2.20	ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.12 フランチェスコ・トリスターノ・シュリメ

MUSIC	
10年3.7	彩の国さいたま芸術劇場 ファミリー・コンサート 中川賢一 pf.
10年3.20	シリーズ 小菅 優の現在 Vol.1 トリオ 光の庭プロムナード・コンサート(年8回) 埼玉会館ランチタイム・コンサート(年3回) 会場:埼玉会館

CINEMA	
	彩の国シネマスタジオ(年13回) ※そのほか、4月埼玉会館上映会、10月熊谷会館上映会あり

3歳以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。
※2009年2月現在。やむを得ない事情により、出演者、プログラム等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

●●●● PLAY ●●●●
さいたまゴールド・シアター 第3回公演
『アンドウ家の一夜』

【日時】6月18日(木)~7月1日(水) 全12公演
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
【作】ケラリーノ・サンドロヴィッチ 【演出】蜷川幸雄 【出演】さいたまゴールド・シアター
【チケット(税込)】一般:3,000円 メンバーズ:2,700円
【発売日】一般:4月18日(土) メンバーズ:4月11日(土)

6月	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	7月	1
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	水
14:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

さいたま

寄席



「彩の国」から追い風は始まった

彩の国落語大賞が制定されてから10年余り、また彩の国さいたま寄席が、四季彩亭と銘打って小ホールを常打ちにして4年。常連のお客様に加え、近年はここで“寄席デビュー”される方も多し。もともと身近な伝統芸能が本席でさらに気軽に楽しめるようになった。

文=油井雅和 [毎日新聞学芸部記者]

「談春さんを見てみたいんだけど」「喬太郎さんっていいですねえ」……。

最近、こんな言葉をよく聞くようになった。相手は落語関係者でなければ、いわゆるマニアでもない。しかも、失礼ながら、意外と若い女性の方が少なくない。

十年一昔とはよく言ったものである。枝雀師匠、志ん朝師匠、そして小さん師匠が亡くなり、「落語界の今後はどうなる」といった報道もかつてあった。それがまるでそのように、今、落語界には追い風が吹いている。

そして、その先頭を切って走っている落語家のほとんどが「彩の国落語大賞」の受賞者であることに、お気づきのことだろう。文壇や歌謡界にはいくつもの賞があるが、落語界にはほとんど賞

というものはなかった。「落語家に賞をあげるなんて野暮。出すなら賞よりご祝儀」と、昔の人は考えたからなのかもしれない。

おそらく、賞を立ち上げた当時は、果たして若手に賞をあげてメリットはあるのだろうか？ という不安もあったに違いない。

だが、若手にとって賞というものは大変励みになる。今の追い風のきっかけのいくらかは「彩の国」のおかげ、といっても決して言いすぎではないほど、受賞者たちは結果を出している。

彼らの心の中では「彩の国で育ててもらった」という思いは、一生消えることはないだろう。そしてお客様も、歳を重ねても「あいつは自分が育てた」という心持ちでいられる。いつまでも彼らを見守り、そしてこれからも後に続く人を育てる「彩の国」であってほしいと思う。

落語大賞 平成20年度 【彩の国落語大賞受賞者決定】



毎回、賑わいを見せている「彩の国さいたま寄席 四季彩亭」、そのお客様のアンケート投票結果をもとにして、平成20年度の彩の国落語大賞に立川生志さんが決まりました。

【彩の国落語大賞受賞者一覧】

- 平成10年度 林家たい平
- 平成11年度 柳家花緑
- 平成12年度 立川志らく
- 平成13年度 柳家喬太郎
- 平成14年度 立川談春
- 平成15年度 三遊亭歌武蔵
- 平成16年度 三遊亭白鳥
- 平成17年度 三遊亭遊雀
- 平成18年度 林家彦いち
- 平成19年度 柳家三三
- 平成20年度 立川生志

平成11年度大賞受賞者・柳家花緑インタビュー

受賞は大きな励み、エネルギーになりました

「彩の国落語大賞をいただいたのは、20代後半のまだ若手で不安定な時期でした。この時期にいただく賞というのは、期待の意味も込められていたと思います。受賞はほんとうに励みになり、刺激やたくさんエネルギーをもらいました。賞をいただいてから約10年。与野では地元のグループからご支援いただき、独演会も続いており、ご縁が深い土地になっています。

蜷川さんが演劇で挑戦を続け、最先端のダンスが観られるような劇場で落語会があるのは、うれしかぎりです。彩の国さいたま寄席は、“ふつう”に続けて開催してほしいですね。世の中は経済不況と言われても、なんとか続けて開催していただきたい。このような落語会があるだけでありがたい。“ふつう”であることが、とても得がたい時代になってきたと思います。こういう時だからこ

そ、落語の“笑い”は生きてくるもの。今後も、若手からベテランの噺家まで出られる間口の広い落語会であるといいですね」



柳家花緑(やなぎや かるく)

昭和46年東京都出身。昭和62年3月 中学卒業後、祖父柳家小さんに入門、前座名 九太郎。平成元年9月二ツ目昇進、小緑に改名。平成6年戦後最年少の22歳で真打昇進、花緑に改名。平成10年度彩の国落語大賞殊勲賞、平成11年度彩の国落語大賞受賞。スピード感溢れる歯切れの良い語り口が人気。古典落語をベースとしながらも、劇作家による新作落語や、シェイクスピア作品やバレエを落語にアレンジするなど、新ジャンルへの挑戦も意欲的に行う。

●●●● PLAY ●●●●

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 柳家権太楼独演会

【日時】4月18日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【出演】柳家権太楼 柳家小権太 伊藤夢葉(手品)

【チケット(税込)】好評発売中

一般:3,000円 / ゆうゆう割引(学生・65歳以上) 2,000円 メンバース:2,700円

●●●● PLAY ●●●●

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 彩の国落語大賞受賞者の会 立川生志

【日時】7月4日(土) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【出演】立川生志 春風亭昇太(ゲスト) ほか

【チケット(税込)】一般:3,000円 / ゆうゆう割引(学生・65歳以上) 2,000円 メンバース:2,700円

【発売日】一般:4月18日(土) メンバース:4月11日(土)



CONDORS
近藤良平

このインタビュで、「決まるまで時間がかかる」と近藤が語ったタイトルは、『白と黒のナイフ』。
その意味するところは、彩の国の舞台で明らかにされる。
切れ味鋭く疾走しつづけるコンドルズに今年も目が離せない。

『白と黒のナイフ』をひっさげて 彩の国で四たびダンスを超える

INTERVIEW

取材・文=貫 成人 [哲学・舞踊批評]

コンドルズが彩の国さいたま芸術劇場で公演を行なうようになって4年目となる。『勝利への脱出』(06年)、『太陽にくちづけ バック・トゥ・ザ・フューチャー』(07年)、『大なる幻影』(08年)とつづいたコンドルズ公演。近藤による「日本昔ばなしのダンス」も2回を数えた。東京はじめ全国からコンドルズファンが集まり、埼玉県民のファンも増えている。キリアンやローザス、ピナ・パウシュなどの海外カンパニー公演で全国の注目を集めていたさいたま芸術劇場だが、コンドルズの登場によって「敷居が低くなったでしょう」と近藤は笑う。

コンドルズは昨年、『アンタッチャブル』をふくめて大きな劇場での新作を3本発表し、『ザ・コンドルズ』のバンド活動、テレビやラジオのレギュラーなど八面六臂の活動をつづけている。にもかかわらず「つねに不安はある」と近藤は言う。コンドルズの作品は「定型ではない、生のもの」なので、本番がはじまるまで観客がそれどう受け入れてくれるのか、また場所柄に自分たちのやり方があるのかもわからない。だが「そういう不安を楽しむ」のが近藤良平であり、コンドルズだ。

“はじまりのはじまり”って、気になりませんか

——コンドルズの観客席からは笑いが絶えませんが、その中にもちょっとしたトゲやアヴァンギャルドな要素が潜んでいるのがコンドルズの舞台です。

「それがスタイルで、最初から変わってません」

——活動を始めたのが1996年でしたから、コンドルズも13年目になりました。

「メンバーもみんな、家族ができましたが、そのようなひとひととのゲームで作っていくのが面白い。自分を磨くやり方はみんな違います。仕事を中心にコンドルズが息抜きのようなメンバーもいる。そういう主張をみんなが持ってくれるほど作品づくりは楽しい。」

ひとつって展開するんだなあと思います。各自の人生は作品に反映している。たとえば勝山(康晴)はずっと古いバイクだったのに、おとといやっと新車を買った。そういうメールが来ると自分もほっとしますね。石淵(聡)さんは、いい意味で大学職になじんでいる。普段は自分の世話すらできないように見えるのに、ダンスを目指す学生とかには世話好きで、その気にさせるのがうまいんですよ」

——作品づくりはどのようにやるんですか。

「作品をつくるときははじめにタイトルがあります。タイトルが決まると、作品のテーマからTシャツのデザインまで決まる。でも、タイトルを決めるまでが時間がかかるんです。」

いま気になっているのは“はじまり”です。なにかを切ろうとしてハサミを手にとったけど、その瞬間に何のためにハサミを手にとったかわからなくなる、とか、みんなで集まったのに、何のために集まったのかわからなくなる、みたいなことがあります。あるいは、なにかをする前



に必ず儀式や理由がある。絵を描く前に、紙を画鋏で貼るなどの儀式。そういう“はじまりのはじまり”とか儀式の部分をいじって、なんとかタイトルに近づけたいと思っているところです」

——前作『アンタッチャブル』では映画の要素がかなり大きかった。『アンタッチャブル』では始まりと終わりがつながるものになってしまいました。“話が進んでいる”と評価してくださる方々もいましたが、古くからのファンの方々からはストーリーは不要とも言われました。ストーリーをつくるやり方はコンドルズとしては“超変化球”です。『アンタッチャブル』はお話では全然ないんですが」

——5月のさいたま芸術劇場での新作にむけて。

「やはり大きな劇場でやる価値というものがあると思います。大きい劇場はたいへんなところもあるんですが、音響や照明などのテクニカルスタッフの方々と一緒に、大きな劇場を埋める作業をする。それが、コンドルズがカンパニーとしてやる作業と一致してるんです。」

5月の作品は埼玉で、さいたま芸術劇場のために作る作品です。春は埼玉中心でいきますよ」

Profile

コンドルズ Condors

コンドルズとは男性のみ舞台衣装は学ランのダンスカンパニー。緻密かつハイスピードに、ダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを展開する熱狂のステージで、国内は無類、世界も股にかけて大活躍中。N.Y. タイムズ紙も絶賛。渋谷公会堂も即完売超満員に。バンドプロジェクト・THE CONDORS はエピックとメジャー契約。日産自動車 [NOTE]、カルピス「健茶王」TVCMタイアップ! NHK 総合 [MUSIC JAPAN] にも出演。主宰の近藤は第四回朝日舞台芸術賞山修司賞も受賞。[AERA] の表紙にもなり、TBS「情熱大陸」などに出演。NHK 教育「からだであそび」、NHK 総合「サラリーマンNEO」の「サラリーマン体操」にも振付+レギュラー出演中。今年春に公開される話題の映画、櫻井翔主演、三池崇史監督作品「ヤッターマン」の振付も担当。

●●●● DANCE ●●●●

コンドルズ 埼玉公演 2009 新作 『白と黒のナイフ』

【日時】5月23日(土) 開演 15:00 / 19:00 24日(日) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【構成・映像・振付】近藤良平

【出演】青田潤一 石淵聡 オクダサトシ 勝山康晴 鎌倉道彦 古賀剛 小林顕作
田中たつろう 橋爪利博 藤田善堂 山本光二郎 近藤良平

【チケット(税込)】好評発売中

一般:前売4,500円/当日5,000円

メンバーズ:前売4,050円/当日4,500円 学生席:2,500円

Jan Fabre

ベルギー発。ヤン・ファールブル、
衝撃の新作を語る

ヤン・ファールブルの活動拠点であるラボラトリウム(ベルギー、アントワープ)で、2009年2月21日まで『寛容のオルギア』の公演が行われた。現代アートの最先端を走り続けてきたヤン・ファールブルらしい挑発的な表現は相変わらずだが、同時に、笑いを交えながら現代の政治状況や消費社会を諷刺し、批判するという新しい境地を開き、それに成功した作品として、ヨーロッパでも大きな反響を呼んでいる。6月26～28日の彩の国公演に先がけて、アントワープに彼を訪ねてこの新作のねらいを尋ねた。

取材・文=藤井慎太郎【演劇研究】

©Jean-Pierre Sloop

Orgy of Tolerance

世界から集まった9人のパフォーマーとの
刺激的な稽古から作品が生まれた

—この作品のタイトルには、どんな意味が込められているのですか？

現代のいわゆる「民主主義」社会は、少数派を大事にするという大義名分のもと、他者の排斥を主張する極右のようなきわめて「不寛容」な集団も「寛容」という、矛盾した立場にあります。私の活動の本拠地であるアントワープ地方では、有権者の3分の1が極右政党に投票するという深刻な状態です。さらに現代の消費社会は、商品として売れるなら、ファッションナブルなら、(性的) 快楽をもたらすなら、いかなるものも許容する社会でもあります。それは、冒頭の場面が象徴するように、絶対に絶頂に達することがないマスターベーションともいえるものです。この作品は、私たちの社会におけるこうした「寛容」の両義性、限界を問いつつものです。現代の社会は、絶対的な存在であった神、イエス・キリストまでも消費して飲み込んでしまうのです。キリストのような人物が、巨大な十字架を手のひらにのせて、バランスをとろうとする場面がありますが、これは私がとても大切に思っている場面です。神も支えきれなくなるほど、世界はバランスを失いかけているのです。

—この作品のテキストは、パフォーマーと稽古しながら書かれたようですが、どのように稽古していったのですか？

作品の出発点のひとつには、モンティ・パイソンがありました。みんな

Profile

ヤン・ファールブル Jan Fabre

1958年、アントワープ生まれ。同時代の最も革新的かつ多才なアーティストの一人。25年間にわたり、パフォーマンス・アーティスト、演出家、振付家、作家、ビジュアル・アーティストとして作品を創作。84年に発表した『劇的狂気の力』は、現代演劇の先端に位置する前衛作品として注目を集め、日本をはじめ世界各国で上演された。80年代より一貫して人間の肉体を探求の対象とし、当劇場で上演された『わたしは血』、『主役の男が女である時』、『死の天使』等、数々の話題作を発表してきた。2005年、アヴィニョン演劇祭にアソシエイト・アーティストとして招かれ、また2007年にはザルツブルク音楽祭の招聘により『寛容のためのレクイエム』を上演。2008年にはパリのルーヴル美術館で美術家としての大々的な個展が開催されるなど、ジャンルを超えて世界的な注目を浴び続ける稀有なアーティスト。



©Stefan Van Fliteren



©Frederik Heyman

©Jean-Pierre Sloop

なでモンティ・パイソンの映像をたくさん見た後で、3カ月半にわたって即興しながら稽古をして、少しずつできあがった作品です。大人数で作業するときには、どうしても演出家は上から君臨してしまいがちですが、今回は久しぶりに、9人のパフォーマーと少人数でより対等なたちで作業することにしました。これは、きわめて刺激的な経験でした。世界各地から集まった、強烈な個性と才能を持ったパフォーマーばかりですからね。

—こんなに笑えるヤン・ファールブル作品も珍しいと思えるほど、みんなよく笑っていた作品でしたが、なるほど、その背景にはモンティ・パイソンがあったのですか？

この作品は、歌あり踊りありの一種のレビュー、エンターテインメントとして見ることもできます。チェスターフィールドのソファをはじめ、私の作品には珍しく、日常生活からとったような舞台装置も出てきますが、ファッション写真のスタジオのような、豪華だけれどいかにも人工的な空間をつくり出したかったのです。客席から丸見えになったかたちで、さまざまな高さに吊った照明まで含めて、全体をひとつのインスタレーションのような空間造形にしました。ソファに座ってテレビを眺めている限りは、皮肉にもどんな世界の暴力や悲劇とも、安心して向かい合うことができるように、現代社会では私たちは二重三重に守られています。けれど、これはまったく他人事ではなく、自分自身の問題であることを、日本のみなさんにも感じてもらえることを願っています。

●●●● DANCE ●●●●

ヤン・ファールブル『寛容のオルギア』

【日時】6月26日(金) 開演 19:30 27日(土) 開演 16:00
28日(日) 開演 16:00

※各日も公演終了後、ヤン・ファールブルによるポスト・パフォーマンス・トークを行います。

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『寛容のオルギア Orgy of Tolerance』(2009年1月初演)

【演出・振付・舞台美術】ヤン・ファールブル 【出演】ダンサー ミュージシャン 俳優 9名

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席7,000円/A席5,000円/学生A席3,000円

メンバーズ:S席6,300円/A席4,500円

※この作品は出演者が煙草を吸います。その煙草の煙と匂いが客席に降りる可能性があります。予めご了承ください。



私たちは12年間、待った。
その「彩の国」公演の日がついにやってくる。

interview

Krystian Zimerman

待ちに待ったクリスチャン・ツィメルマンの演奏を聴くことができる。実に12年ぶりの彩の国 音楽ホール公演だ。

音の響きのコントロールに比類ない情熱を持つツィメルマンは、

プログラミングにも慎重な姿勢は崩さない。

このインタビューが行われた2008年11月の時点でも、「聴衆に誠実であるために」と

まだプログラムは決めていなかった。



クリスチャン・ツィメルマンの 透明な約束

取材・文=青澤隆明 [音楽評論]

いつの時代のどの社会でも、約束は大切なものだ。そして、もしかすると、現代ほど約束の意味が軽くなっている時代はないのかも知れない。ほかの時代に生きたことのない私たちにほんとうのところはわからないけれど、やはりなにかが稀薄だという気配は感じられる。

約束を破らない最良の方法は、約束をしないことだ。そして、クラシックのコンサートの大きな決めごとのひとつは、プログラムを事前に発表するというもので、その慣習はとかく根強い。しかもピアノ・リサイタルならば、曲目の組み合わせはほぼ無限にもあるだろう。

「プログラムをまだ出せていなくてごめんなさい」。彩の国さいたま芸術劇場への実に12年ぶりとなる再登場について話し出すと、クリスチャン・ツィメルマンはすぐにそう言って、照れるように小さく笑った。

「ツアーの全容をみて、楽器の輸送、演奏会と演奏会の間にどれだけ楽器の調整時間があるかを理解しないとけません。それらの複雑な事情を考え合わせた結果として、プログラムが決まるものですから」。

「バッハ、ベートーヴェン、ブラームスの作品」、そして故郷ポーランドのシマノフスキが書いた「〈ポーランド民謡の主題による変奏曲〉作品10」が、2009年5月22日のリサイタルの曲目としていま挙がっている。年に50回ほどにコンサートの回数を絞りこみ、彼自身が最良の状態と考えるコンサート・ピアノを海外にも持ち運び、コンサートホールの音響分析をふまえて、演奏活動のすべてをコントロールしようとする徹底した志向は、ツィメルマン持ちまへの完璧主義として広く知られている。しかし、作曲家までは決まっているのだから、物理的なことが条件であるならば、あとひと息で曲まで詰められるような期待も抱かされるが、クリスチャン・ツィメルマンはそこにもうひとつパーソナルな理由を加えた。

「ベーシックに言うと、私はプログラムをできるだけ遅く出すようにしたい。誠実であるために。その時点で、自分が正直に演奏したい曲目で構成したいのです。レパートリーというのは『飢え』のようなものだから、私がこの2年のうちにどのような渴望を抱くかをできるだけぎりぎり予見はしますが、それでも2年経って、このプログラムを弾きたくないからと破棄するようなことはしたくない(笑)。それは、主催者が望むことでも、私がしたいことでもありません。聴衆のみなさんにとってもそうでしょう。だから、プログラムを提出するのはとても遅くなりますが、それは着実に、聴衆に対する誠実さを確保します。この人間はステージでほんとうに弾きたい曲を演奏しているのだというね。すると、彼らは私たちが信頼できるようになるし、これらの作品に感動できるようにもなる。私たちは最初にこれらの作品の犠牲にならなくてはならない



人間だし(笑)、もし信頼をもってその犠牲を払えば、聴衆にずっとよい感情を届けることができる。ただ、決まった作品を演奏して、その曲を好きであるふりをするよりも、はるかにいい(笑)。

つまり、聴衆との信頼関係の問題でもあるわけですね、とたずねると、ツィメルマンは即座に「それは私にはわからない」と答えた。

「私には演奏する楽しみを得たいという、ある種のエゴイズムがある。非常にエゴイスト的な感情だけれど、私はコンサートで楽しみを感じたいのです」。

ツィメルマンが、ピアノやコンサートホールの音響を精密に長年科学的に研究してきたのは、ある意味、それらの物理的な要件を、すべて意識から追いやるためだったのだろう。

「そうです。私はできるかぎり最短の方法を見出したい。私の魂のうちで聴こえているもの、私の頭や心のなかに響くものを、人々に受けとっていただきたい。これは、作曲家が作品を書くときの感情と、ベーシックには同じものだと思います。私がステージですることの基本は、作曲家がこの固有の音を書いたときと同じ感情を再発明し、音楽やノイズ、音や響きのシーケンスを通じて、そうした感情が聴き手の魂のなかに再創造されるように努めることです。これはとても複雑なように聞こえるけれど、その実、非常にたやすいことなのです」。

クリスチャン・ツィメルマンが聴衆に対して抱く透明な約束は、こうして紙に書かれた曲名以上の、慎重な誠実さをもって、さいたま芸術劇場の5月に美しく鳴り響くことだろう。

(2008年11月13日、東京にて取材)

Profile

クリスチャン・ツィメルマン (ピアノ)

ポーランドのサブジェ生まれ。1975年にシヨパン国際ピアノコンクールに史上最年少の18歳で優勝し、一躍世界の音楽界に知られる存在となった。いま最も高い人気と実力を誇るピアニストの一人。自ら技術的改良を加えたピアノをツアーで持ち歩くなど、音楽家としてのキャリアに関わることを全て自分の手でコントロールしており、音響学や録音技術への造詣も深い。CDはドイツ・グラモフォンの専属契約の下に数多くの権威ある賞を受賞。

●●●● MUSIC ●●●●

クリスチャン・ツィメルマン ピアノ・リサイタル

【日時】5月22日(金) 開演 19:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】バッハ、ベートーヴェン、ブラームスの作品
シマノフスキ:ポーランド民謡の主題による変奏曲 作品10

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席10,000円/A席8,000円/学生A席3,000円
メンバーズ:S席9,000円/A席7,200円

※A席予定枚数終了

「今弾きたい曲」に立ち合える幸せ

今や彩の国の音楽ホールにすっかり定着した「ピアノ・エトワール・シリーズ」。3期目を迎える今シーズンも4人の選ばれたきら星が、得意のレパートリーはもちろん、「今弾きたい曲」を携えて登場する。旬のピアニストが、自分の弾きたい旬の曲を弾く。“未来の巨匠たち”の、まさに未来を予感させる演奏は聴き逃さない。

✕=片桐卓也 [音楽ライター]

次世代を担うヴィルトゥオーゾ アレクサンダー・ガヴリリュク

ウクライナ生まれだが、師であるヴィクトル・マカロフと共にオーストラリアに移住し、2000年の浜松国際ピアノ・コンクールで第1位となり話題を呼んだ。当時まだ16歳だったが、完成された技巧と豊かな音楽性は審査員に驚きを与えた。その後交通事故に遭い再起も危ぶまれたが、奇跡的に復活し、最近ではオーストラリア、日本、ロシアのみならず、ヨーロッパでもその演奏が高い評価を得ている。古典派からロシア物まで、どんな作品でも、素晴らしい音色で弾き分けてしまうガヴリリュクだが、今回の公演でもベートーヴェンからショパン、リスト、ラフマニノフ、ストラヴィンスキーと時代を追うように、古典派から20世紀までの幅広いレパートリーを演奏する。これはガヴリリュクのスタイルである。高い完成度を誇る彼のピアニズムは、今回も聴き手を魅了するだろう。

透明感に満ちたロマンティズム 三浦友理枝

日本で学んだ後にイギリス、ロンドンの王立音楽院でクリスト

ファー・エルトンに師事し、同音楽院の修士課程を終えた。日本国内での活発な演奏活動の他、ロンドン・ソロイスツ室内オーケストラとロンドンで共演、ウィーンでもリサイタルを行うなど、海外でも活動を続けている。ショパンなどのロマン派を得意とするが、それ以外に現代曲にも強い関心を持って、演奏会で取り上げたりしている。強いタッチを持ち、そこからクリアな音色を紡ぎ出して、くっきりとした音楽を造型するのが彼女の特徴。それだけに、今回取り上げるショパン、ラヴェルの演奏に期待が高まる。またラヴェルと同時代人ともいえるシマノフスキ(20世紀初頭に活躍したポーランドの作曲家)の作品を数多く取り上げるのも、日本人ピアニストとしては珍しいこと。ユニークなプログラミングは楽しみだ。

躍動感ほとばしる先鋭 福間洗太朗

「ピアニスト100」シリーズでも2006年に登場した逸材である。都立高校を卒業後パリ国立高等音楽院に留学しブルーノ・リグットに師事。03年にはクリーヴランド国際ピアノコンクールに日本人として初めて優勝した。その後ベルリン芸術大学で研鑽を積みつつ、世界

各地で演奏会(その中にはニューヨークのリンカーンセンター、ロンドンのウィグモアホールも含まれる)を行い、ナクソス・レーベルなどからもCDをリリースしている。知性と感性のバランスが非常に優れたピアニストで、古典から現代まで幅広いレパートリーを持つだけでなく、それぞれの作品についてのアプローチの中に、作品本来の魅力を探る彼自身のアイデアが溢れている、そんな雰囲気を持つピアニストである。今回はバッハとベートーヴェンの他、ロシア物の中でも難曲とされるスクリャービン《白ミサ》とバラキレフ《イスラメイ》がプログラムに入っている。新たな福間の世界を見せてくれるに違いないと期待する。

即興演奏や作曲も手がける奇才 フランチェスコ・トリスターノ・シュリメ

ブリュッセル、ラトヴィア、パリ、そしてニューヨークのジュリアードで学ぶという国際的な経歴を持つピアニストである。ミハイル・ブレトニョフに見いだされてロシア・ナショナル管と共演してアメリカ・デビューするなど、国際的な評価もすでに高い。また2001年には自ら室内オーケストラ「新バッハ・プレイヤーズ」を結成して、ヴィヴァルディの「四季」をピアノと弦楽器用に編曲して、演奏&指揮を担当するなど、独自の活動も行っている。現代音楽のみならず、最近のテクノハウス音楽にも深い関係を持つ彼は、例えばテクノ音楽のカール・クレイグの作品を自分の編曲で演奏するなど、今回のプログラムの中にも独自の世界を感じさせる作品を入れている。純粋なクラシックの世界と、それ以外の音楽世界との交流という点でも、最も新しい感性を感じさせるシュリメの登場は話題となるだろう。

光の庭プロムナード・コンサート 光と音が非日常にいざなう至福のひとつとき

光庭を囲んだ情報プラザで、土曜の午後に開催している「光の庭プロムナード・コンサート」。普段は演奏会に足を運ぶ機会がない方にも素敵な音楽に耳を傾けていただきたいと、オープン・スペースで行っています。また、「ホールでも聴いてみたい!」というお声を受けて、今年には埼玉県・県民の日に音楽ホール版をお届けします! 劇場のポジティブ・オルガン(移動可能なパイプオルガン)と歌や楽器が奏でるハーモニーをお楽しみ下さい。



- 【日時・出演】
- ◆ 5月9日(土) 川勝さちこ(オルガン) & 大山知佐子(ソプラノ)
 - ◆ 6月27日(土) 小島弥寧子(オルガン) & 本岩孝之(カウンターテナー)
 - ◆ 7月25日(土) 小野田良子(オルガン) & 高木潤一(ギター)
 - ◆ 8月22日(土) 夏休みスペシャル 大塚直哉(オルガン) & 熊谷乃理子(ダンス)
 - ◆ 9月26日(土) 川越聡子(オルガン) & 廣海史帆(バロック・ヴァイオリン)
 - ◆ 11月14日(土) 県民の日スペシャル 徳岡めぐみ(オルガン) & 尾崎温子(バロック・オーボエ)
- 14:00開演(14:40終演予定。11月14日 県民の日スペシャルのみ14:00~15:00)
- 【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 1階 情報プラザ 11月14日のみ音楽ホール
- 【料金】 入場無料

Piano Étoile Series



Vol.9 アレクサンダー・ガヴリリュク

1984年ウクライナ生まれ。99年ホロヴィッツ記念国際ピアノコンクール及びオーストラリア・ピアノコンクールで第1位を獲得。2000年11月に行われた第4回浜松国際ピアノコンクールでは、審査員満場一致での第1位受賞。05年アルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノコンクールにて第1位及び金賞、ベストコンチェルト賞を受賞。07年の日本ツアーでは、満場絶賛の拍手を受けるなど、世界各地で多くの聴衆に感銘を与えている。



Vol.10 三浦友理枝

1981年東京生まれ。2005年英国王立音楽院大学課程を首席で卒業。07年同音楽院・修士課程を修了。01年第47回マリア・カナルス国際音楽コンクールピアノ部門第1位、06年第15回リーズ国際ピアノコンクールにて特別賞を受賞。国内外でオーケストラとの共演やリサイタルで積極的な演奏活動を展開している。CDは、エイベック・クラシックスより05年に「印象」、07年に「エチュード」をリリース。



Vol.11 福間 洗太朗

1982年東京生まれ。都立武蔵高校卒業後ヨーロッパへ留学し、パリ国立高等音楽院、ベルリン芸術大学、コモ湖国際ピアノアカデミーにて学ぶ。20歳でクリーヴランド国際ピアノコンクール優勝(日本人初)及びショパン賞受賞。ニューヨーク・リンカーンセンターでデビュー以来、全米、ヨーロッパ、南アフリカ、日本で定期的に演奏する。彩の国さいたま芸術劇場へは、2006年の「ピアニスト100」シリーズから2回目の登場。現在ベルリン在住。



Vol.12 フランチェスコ・トリスターノ・シュリメ

1981年ルクセンブルク生まれ。王立ブリュッセル音楽院、パリ市音楽院を経て、ジュリアード音楽院に留学。2000年ブレトニョフ指揮ロシア・ナショナル交響楽団でアメリカ・デビュー。04年オルレアン20世紀音楽国際ピアノコンクール優勝。ヨーロッパ・コンサートホール・オーガニゼーション07-08「ライジング・スター」アーティストとして、ヨーロッパ各地でリサイタルを開催。即興演奏や作曲も手掛け、幅広いジャンルで才能を発揮している。

●●●● MUSIC ●●●●

【日時】 6月28日(日) 開演 15:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】 ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第8番 ハ短調 作品13「悲愴」
ショパン:ボロネーズ第3番 長調 作品40-1「軍隊」
即興曲第1番 変イ長調 作品29/夜想曲第8番 変ニ長調 作品27-2
リスト:メフィスト・ワルツ第1番(村の居酒屋での踊り) S514
ストラヴィンスキー:《ペトルーシカ》からの3楽章
ラフマニノフ:10の前奏曲 作品23より 第1、2、5、6、7番
ビゼー(ホロヴィッツ編曲):カルメン変奏曲 [1回券]好評発売中

●●●● MUSIC ●●●●

【日時】 9月5日(土) 開演 14:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】 ショパン:4つのマズルカ 作品68
シマノフスキ:4つのエチュード 作品4
創作主題による変奏曲 作品3
ラヴェル:水の戯れ
高雅で感傷的なワルツ
シマノフスキ:仮面 作品34

[1回券発売日] 一般:5月16日(土) メンバーズ:5月9日(土)

●●●● MUSIC ●●●●

【日時】 11月28日(土) 開演 14:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】 J. S. バッハ:《フーガの技法》BWV1080より
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 作品110
スクリャービン:2つの詩曲 作品63
ピアノ・ソナタ第7番「白ミサ」作品64
グリムカ(バラキレフ編曲):ひばり
バラキレフ:イスラメイ

[1回券発売日] 一般:7月18日(土) メンバーズ:7月11日(土)

●●●● MUSIC ●●●●

【日時】 2010年2月20日(土) 開演 14:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】 ドビュッシー:前奏曲集 第1巻
J. S. バッハ:バルティータ第2番 ハ短調 BWV826
クレイグ(シュリメ編曲):テックロジエ
ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI:48

[1回券発売日] 一般:10月10日(土) メンバーズ:10月3日(土)

[チケット(税込)] 4回セット券 S席 12,000円/A席 8,500円
1回券 一般:S席 3,500円/A席 2,500円/学生A席 1,000円 メンバーズ:S席 3,150円

準・メルクルが相思相愛のN響と共演

当代の人気指揮者、準・メルクルの日本デビューは1997年のN響を指揮したドビュッシーの《海》だった。以来、定期的に客演をつづけている仲。加えて今年生誕200年を迎えるメンデルスゾーンの名曲を若手実力派のヴァイオリニスト、佐藤俊介が奏でる。恒例の埼玉会館公演、さらに充実したプログラムは聴き逃さない。

文=奥田佳道 [音楽評論家]



Jun Märkl

©MDR Axel Berge



Shunsuke Sato

©Gilles Beremann

Profile

準・メルクル (指揮)

1959年ミュンヘン生まれ。ウィーン国立歌劇場、ドレスデン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場など、ドイツ各地の歌劇場で活躍し、2005年にはリヨン国立管弦楽団の音楽監督に、07年にライプツィヒ放送交響楽団の首席指揮者・芸術監督に就任。日本には97年にN響を指揮してデビュー、その後も定期的に客演を続けている。他に、パシフィック・ミュージック・フェスティバルへの参加、水戸室内管弦楽団との共演など、日本での活躍もめざましい。

佐藤俊介 (ヴァイオリン)

1984年東京生まれ。10歳でフィラデルフィア管弦楽団の学生コンクールに優勝し、同楽団と初共演。最年少12歳でニューヨークのヤング・コンサート・アーティストのキャリアサポートを授与され、北米での演奏活動を開始する。ジュリアード音楽院プレ・カレッジ、カーティス音楽院を経て、2003年よりパリに在住。ジェラルド・ブルーのもとで研鑽を積み、近年ではヨーロッパを中心に活躍している。05年第15回出光音楽賞受賞。現在の使用楽器は07年パリ製シュテファン・フォン・ペア。

NHK交響楽団 (管弦楽)

1926年にプロ・オーケストラとして結成された新交響楽団が、日本交響楽団の名称を経て、51年NHK交響楽団と改称。今日に至るまで、カラヤン、ストラヴィンスキー、アンセルメ、マタチッチなど世界一流指揮者を次々と招聘し、歴史的名演を残している。国内での演奏会のほか、定期的な外国公演、セミ・ステージ・オペラなどの斬新な企画、委嘱作品の充実、メジャー・レーベルとのCD録音など、その活動と演奏は国際的にも高い評価を得ている。

●●●● MUSIC ●●●●

NHK交響楽団 準・メルクル 指揮 佐藤俊介 ヴァイオリン

【日時】6月21日(日) 開演 15:00

※14:25~40に指揮者 準・メルクル氏によるプレコンサート・トークあり。

【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】準・メルクル(指揮) 佐藤俊介(ヴァイオリン) NHK交響楽団

【曲目】ファリャ:バレエ組曲《三角帽子》より 第2部

メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

ドビュッシー:《管弦楽のための映像(映像 第3集)》より 第2曲(イベリア)

ラヴェル:ボレロ

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席7,000円/A席5,500円/B席4,000円/学生B席2,000円

メンバーズ:S席6,300円/A席4,950円/B席3,600円

思わず涙した、あの日のタクト

今から10数年前、NHK交響楽団は欧米の檜舞台に名乗りを上げ始めた若手の指揮者とたくさん出逢った。逸材に鬼才、オペラに強い楽長タイプや、シンフォニーで本領発揮の俊英など、次世代を担うマエストロが個性を競うのがごとく登場しN響と共演した。そのなかでも、この人の「デビュー」はほんとうに鮮烈だった。

ウィーン国立オペラやミュンヘンのバイエルン州立オペラ、ベルリンなどを拠点としていた日独ハーフの準・メルクルである。1959年ミュンヘン生まれだから、日本に紹介され始めた97年、98年はまだ30代の後半。当時のメルクルは独逸人ハインツの音楽総監督で、ウィーン国立オペラの常連の客演指揮者だった。

しかし準・メルクルはオペラゆかりのレパートリーや、いわゆるドイツ物の交響曲を携えてN響に登場したわけではなかった。忘れもしない。彼が日本で最初に指揮したコンサートのメインディッシュは、ドビュッシーの交響詩《海》。精妙な色彩表出に驚嘆したものである。また98年春のN響定期初登場時に客席を大いに喜ばせたのはブラームス作曲、シェーンベルク編曲のピアノ四重奏曲第1番(管弦楽版)だった。そのN響定期でFM生中継の解説をしていた筆者は、感動

のあまり、涙ぐみ、コメントに詰まってしまったほどだった。「何でも誉める奥田佳道だが、メルクルの生放送では、つい言葉に詰まるなど、感受性は豊かな人なんだ、という印象を持った」と、あるクラシック本の鼎談でお褒めの言葉を頂戴したほどである。

オペラハウス引き上げの職人技と、繊細な感性を併せ持つ準・メルクルは、ほどなくN響定期の常連指揮者となる。ウィーン古典派からロマン派の名作、マーラーの「復活」、現代ドイツのヘンツェまで幅広いレパートリーを指揮し、新国立劇場での《ニーベルングの指環》も任された。《指環》のオーケストラは前半2演目が東京フィル、後半2演目がN響だった。いっぽう近年はフランス国立リヨン管弦楽団の音楽監督に招かれ、またライプツィヒのMDR(中部ドイツ放送協会)交響楽団の首席指揮者にも就任した。

日本デビュー時のドビュッシーが象徴するように、またリヨンのポストが示すように、この人はフランス音楽の花束、そしてラテン(南欧スペインやイタリア)音楽の舞いや芳香との相性もいい。

それゆえに6月に、埼玉会館で指揮するファリャの喜劇バレエ《三角帽子》のハイライト部分を抜き出した第2組曲や、ドビュッシー芸術の昇華と評すべき《映像》への期待は限りない。異国情緒も魅力となる南欧発のバレエ音楽と、印象派の音楽が醸す響きの綾を通じ、準・メルクルはきっと、私たちがライブの魔境に誘ってくれるはずだ。

メンデルスゾーン 生誕200年に華をそえる

伸びゆく若手に手を差し伸べるのもこの誠実なマエストロのいいところで、今回は実力派ヴァイオリニスト佐藤俊介とメンデルスゾーンで共演する。グリーグのソナタや小品を収録したCD、それに内外での協奏曲、リサイタルで絶賛の佐藤が、ヴァイオリン協奏曲の名刺曲で

あるメンデルスゾーンを弾くのだ。しかもこの作曲家の響きを十八番とする準・メルクルのタクトに導かれて。歌心とドラマに満ちた協奏曲が会場を満たすことは、ほぼ間違いない。2009年はメンデルスゾーンの生誕200年、そして準・メルクルの50歳を祝う年でもある。

準・メルクル指揮 NHK交響楽団の埼玉公演、プログラムの最後を飾るのは、リズムの執拗な! 反復も、次々と受け継がれる管楽器陣のソロも魅力となる《ボレロ》である。深い絆で結ばれた指揮者とオーケストラの交歓に酔いしれたい。N響の皆さん、頼みますよ。

お昼どき、1000円で 気軽に楽しむクラシック♪

お昼のひとつときに、本格的な演奏を出演者のお話も交えながら気軽に楽しんでいただける「ランチタイム・コンサート」。1,000円というチケット代も魅力です。今年「もっと聴きたい!」というご要望にお応えして、10分拡大した50分プログラムでお届けいたします。また、演奏を楽しんだ後には、会館近隣の協賛店で様々な特典をご用意いただいておりますので、そちらもどうぞお楽しみに!

●●●● MUSIC ●●●●

埼玉会館ランチタイム・コンサート

【日時】

5月28日(木) 第7回 N響メンバーによる金管五重奏

7月2日(木) 第8回 東京交響楽団メンバーによる
木管五重奏 + バグパイプ

10月27日(火) 第9回 古部賢一(新日本フィル首席)
オーボエ・リサイタル

各回開演 12:10 (終演予定 13:00)

【会場】埼玉会館 大ホール

【チケット(税込)】好評発売中 各回全席指定 1,000円

EVENT CALENDAR 2009.3.15-2009.5.31

Event calendar for March and April, listing dates, days of the week, event titles, and times. Includes events like 'マンダラの名もなき看守' and '源氏語り五十四帖'.

Event calendar for March (continued), listing dates, days of the week, event titles, and times. Includes events like 'みんなのオルガン講座' and '熊谷会館ファミリー・コンサート'.

Event calendar for May, listing dates, days of the week, event titles, and times. Includes events like '光の庭プロムナード・コンサート' and '源氏語り五十四帖'.

3才以上のお子さんから楽しんでいたいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報(～2009.5.16)

CINEMA 彩の国シネマスタジオ

『マルタのやさしい刺繍』

叶えられなかった夢、忘れかけていた想い。夢への扉を開く勇気があれば、人生の輝きは何度でもやってくる!

チケット発売日 一般・メンバーズ:3月15日(日)

日時=5月22日(金) 13:00/15:40/18:50 23日(土) 10:00/13:00/16:00/19:10 24日(日) 10:00/13:00/15:30/18:30

会場=彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

監督=ベティナ・オベルリ 出演=シュテファン・グラウザー アンナマリー・デュリンガー ハイジ=マリア・グレスナー

MUSIC 埼玉会館ファミリー・クラシック

夏休みオーケストラバンド!

毎年好評の家族で楽しめるオーケストラ公演。今年の「指揮者にチャレンジ!」コーナーでは「運命」に挑戦!

チケット発売日 一般:3月21日(土) メンバーズ:3月14日(土)

日時=8月2日(日) 開演14:00 会場=埼玉会館 大ホール 出演=飯森範親(指揮) 朝岡 聡(ナビゲーター) 嘉村ゆりえ(ピアノ)

CINEMA 彩の国シネマスタジオ

『闇の子供たち』

真実の闇に切り込んだ阪本監督の意欲作。決して遠くはない国、タイで繰り広げられる物語が心に響く。

チケット発売日 一般・メンバーズ:4月10日(金)

日時=6月12日(金) 14:20/18:20 13日(土) 10:30/14:30/18:30 14日(日) 10:00/14:30/18:30

会場=彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督・脚本=阪本順治 原作=梁石日 プロデューサー=椎井友紀子

【チケットの購入方法について】

財団チケットセンター 048-858-5511 10:00～19:00 (休館日を除く)

- 窓口営業時間 彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00(休館日を除く) 埼玉会館 10:00～19:00(休館日を除く) 熊谷会館 10:00～17:00(休館日を除く)
●電話予約&販売 チケットの電話でのご予約は、財団チケットセンターにて承っております。
●窓口販売 各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)のチケット販売窓口にて、3会場のチケットをお買い求めいただくことができます。

MUSIC

バッハ・コレギウム・ジャパン

ヘンデル没後250年記念特別プログラム 鈴木雅明 cond. & org.

チケット発売日 一般:3月28日(土) メンバーズ:3月20日(金・祝)

日時=7月18日(土) 開演15:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール 出演=鈴木雅明(指揮・オルガン) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)

PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演 アンドウ家の一夜

チケット発売日 一般:4月18日(土) メンバーズ:4月11日(土) 詳細はP.7にて

PLAY 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～彩の国落語大賞受賞者の会 立川生志

チケット発売日 一般:4月18日(土) メンバーズ:4月11日(土) 詳細はP.8～9にて

PLAY 松竹大歌舞伎

熊谷の夏の風物詩「松竹大歌舞伎」が今年もやってきます。出演は片岡仁左衛門ほか。どうぞお楽しみに。

チケット発売日 一般:4月19日(日) メンバーズ:4月12日(日) 日時=7月18日(土) 昼の部12:30 夜の部17:30 会場=熊谷会館 出演=片岡仁左衛門 ほか 演目=「義経千本桜」ほか

MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.10 三浦友理枝

チケット発売日 一般:5月16日(土) メンバーズ:5月9日(土) 詳細はP.16～17にて

MUSIC 小山実稚恵 ピアノ・リサイタル

彩の国さいたま芸術劇場開館15周年を記念して、小山実稚恵が劇場への思いをこめて組んだ特別プログラム!

チケット発売日 一般:5月16日(土) メンバーズ:5月9日(土) 日時=10月3日(土) 開演14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

お電話番号はくれぐれもお間違いのないようお願い致します。

- インターネット販売 ホームページ(http://www.saf.or.jp)から、空席状況の検索、チケットの購入ができます。
●注意及びお願い事項 ●チケット発売初日の窓口での購入枚数、お電話でのご予約枚数を制限させていただく場合がございます。

発売中公演情報 (2009.3.15 ~)

PLAY

「ムサン」
 日時=3月4日(水)~4月19日(日) 全54公演 会場=彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 出演=藤原竜也 小栗旬 鈴木杏 吉田鋼太郎 辻萬長 白石加代子 ほか
 ※予定枚数終了致しました。

源氏語り五十四帖

日時=第48回「宿木(やどぎ)2」3月15日(日) 第49回「東屋(あづまや)」5月17日(日)
 第50回「浮舟(うきふね)1」7月12日(日) 第51回「浮舟(うきふね)2」9月27日(日)
 各回開演14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
 出演=幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:上智大学教授)
 料金=全席指定 1回券:2,500円 第49~51回連続券:6,600円

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~柳家権太楼独演会

詳細はP.8~9にて

DANCE

コンドルズ 埼玉公演2009新作『白と黒のナイフ』 詳細はP.10~11にて

ヤン・ファール『寛容のオルギア』 詳細はP.12~13にて

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『マンデラの名もなき看守』

日時=3月15日(日) 10:00 / 13:30 / 16:50
 会場=彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督=ビレ・アウグスト
 出演=ジョセフ・ファインズ デニス・ヘイスバート ダイアン・クルーガー ほか
 (2007年/仏・独・ベルギー・伊・南ア合作/117分)
 料金=一般:前売1,000円/当日1,200円 小中高生:前売800円/当日1,000円

彩の国シネマスタジオ『石内尋常高等小学校 花は散れども』

日時=4月10日(金) 13:00 / 15:50 / 19:00
 11日(土) 10:00 / 13:20 / 16:10 / 19:10
 12日(日) 10:00 / 13:20 / 16:50
 ※4/10(金) 13:00上映回は、音声ガイドがつきます。イヤホン付きFMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方のご持参ください。
 ※4/12(日) 13:20上映回終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。

会場=彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 原作・脚本・監督=新藤兼人
 出演=柄本明 豊川悦司 六平直政 川上麻衣子 大竹しのぶ ほか(2008年/日本/118分)
 料金=一般:前売1,200円/当日1,400円 小中高生:前売800円/当日1,000円
 ※4月上映作品からチケット料金を改定させていただきます。ただし、小中高生の料金は変更ありません。
 ※インターネットでの販売はございませんのでご了承ください。

彩の国シネマスタジオ 埼玉会館上映会『12人の怒れる男』

日時=4月24日(金) 13:00 / 18:30
 ※13:00上映回終了後15:45から16:00まで、18:30上映回前18:15から18:30まで埼玉弁護士会所属弁護士によるトークがあります。
 会場=埼玉会館 小ホール 監督・脚本・製作・出演=ニキータ・ミハルコフ
 出演=セルゲイ・マコヴェツキイ セルゲイ・ガルマッシュ ヴァレンティン・ガフト ほか
 (2007年/ロシア/160分)
 料金=一般:前売1,200円/当日1,400円 小中高生:前売800円/当日1,000円
 ※4月上映作品からチケット料金を改定させていただきます。ただし、小中高生の料金は変更ありません。

SPECIAL PICK UP

熊谷会館に「クインテット」でおなじみのアキラさんがやってくる!

熊谷会館で毎年開催している、家族で楽しむコンサート。今年はNHK教育テレビ「クインテット」でおなじみのアキラさんこと宮川彬良さんが、同番組の音楽を担当するアンサンブル・ベガと共に登場し、笑いあり、涙ありのエンターテインメント・ショーを繰り広げます!
 アキラさんの音頭で会場の皆さんと一緒に歌う場面もあり、盛りだくさんの70分プログラムです。どうぞご家族皆さままでお楽しみください。

MUSIC

熊谷会館ファミリー・コンサート
宮川彬良&アンサンブル・ベガ
 【日時】5月2日(土) 開演 15:00 (16:10終演予定)
 【会場】熊谷会館
 【出演】宮川彬良(音楽監督、作編曲、ピアノ) アンサンブル・ベガ
 【曲目】デーレ(宮川彬良編曲):すみれの花咲く部屋
 ハチャトゥリアン:剣の舞
 ~みんなて歌おう!~
 ヒビキトシヤ/宮川彬良:幸せのリズム
 宮川彬良:ゆうがた クインテット テーマ ほか

【チケット(税込)】好評発売中
 大人2,500円 子ども(3歳~中学生)1,000円
 ※3歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。



MUSIC

埼玉会館ファミリー・クラシック
パティントン ペア™といっしょにコンサートに行こう!
 日時=3月15日(日) 開演 14:00 会場=埼玉会館 大ホール
 料金=大人3,000円 子ども(3歳~中学生)1,500円

福井 敬 テノール・リサイタル
 日時=4月25日(土) 開演 15:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 出演=福井 敬(テノール) 谷池 重穂子(ピアノ)
 曲目=ヘンデル:オペラ・マイ・フ
 ブッチャーニ:歌劇《トゥーランドット》より“誰も寝てはならぬ” ほか
 料金=一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,500円
 メンバース:S席3,600円/A席2,700円

熊谷会館ファミリー・コンサート
宮川彬良&アンサンブル・ベガ 詳細は下枠にて

クリスチャン・ツィメルマン ピアノ・リサイタル
 詳細はP.14~15にて

埼玉会館ランチタイム・コンサート
第7回 N響メンバーによる金管五重奏
第8回 東京交響楽団メンバーによる木管五重奏+バグパイプ
第9回 古部賢一(新日本フィル首席)オーボエ・リサイタル
 詳細はP.19にて

NHK 交響楽団 準・メルクル(指揮) 佐藤俊介(ヴァイオリン)
 詳細はP.18~19にて

ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.9 アレクサンダー・ガヴリリュク
 ※4回セット券(Vol.9~Vol.12)も発売しております 詳細はP.16~17にて

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。

公演詳細は、財団ホームページ
<http://www.saf.or.jp>にて

PLAY
 さいたまゴールド・シアター
『95kgと97kgのあいだ』 フェスティバル/トーキョー
 【日時】3月18日(水)~29日(日) 全11公演
 【会場】にしすがも創造舎
 【作】清水邦夫 【演出】蛸川幸雄
 【出演】さいたまゴールド・シアター NINAGAWA STUDIO 横田栄司 ほか
 【チケット(税込)】全席自由 椅子席:4,000円
 ※他の席種はフェスティバル/トーキョー実行委員会事務局へお問合わせください。
 【問合せ先】フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局
 TEL:03-5961-5202 <http://festival-tokyo.jp>

information インフォメーション

日本昔ばなしのダンス 全国巡回
「日本昔ばなしのダンス」、旅に出る!

日本の昔ばなしをダンスでつづる人気シリーズ「日本昔ばなしのダンス」が、日本の各地で再演され、大好評を得ている。2006年から始まった同シリーズ。子どもも大人も楽しめるダンス公演として、ここさいたまで毎年2つの新しい演目が製作、初演されてきた。近藤良平、伊藤千枝、森下真樹等、ダンス界の個性派アーティストによるレパートリーは、今や6作品。『ねずみのすもう』、『はなさかじいさん』、『うらしまたろう』といった誰もが知っているお話、登場人物(そして動物!)が、奇想天外なからだの動きでステージに現れる。全国で大活躍する「昔ばなしのダンス」にご期待ください。

■これまでの公演地
 愛知県芸術劇場、北上さくらホール(岩手)

■今後の公演予定
【演目】『ねずみのすもう』、『へっこきよめ』
【日程】9月27日(日)
【会場】サンポートホール高松(香川)
 2010年には『はなさかじいさん』、『うらしまたろう』のツアーを予定しています。(1月/まつもと市民芸術館 ほか)



2006年公演より「ねずみのすもう」©Arnold Groeschel

レパートリー

『へっこきよめ』
 構成・演出・振付:伊藤千枝
 出演:「珍しいキノコ舞踏団」
 選抜メンバー

『ねずみのすもう』
 構成・演出・振付:近藤良平
 出演:「コンドルズ」選抜メンバー

『かみなりむすめ』
 振付:井手茂太
 出演:康本雅子 井手茂太



2006年公演より「へっこきよめ」©Arnold Groeschel

『さんねんねたろう』
 振付:康本雅子
 出演:井手茂太 康本雅子

『はなさかじいさん』
 構成・演出・振付:近藤良平
 出演:「コンドルズ」選抜メンバー

『うらしまたろう』
 構成・演出・振付:森下真樹
 出演:森下真樹 ほか

ACCESS MAP アクセスマップ

彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 熊谷会館

〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
 電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515
 電車でのアクセス JR 埼京線 与野本町駅(西口) 下車 徒歩7分
 バスでのアクセス JR 北浦和駅から西武バス大久保行き「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
 電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477
 電車でのアクセス JR 京浜東北線浦和駅(西口) 下車 徒歩6分

〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
 電話:048-523-2535 ファックス:048-523-2536
 電車でのアクセス JR 高崎線熊谷駅(北口) 下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

「簡単」・「早い」インターネットチケット購入

- Point 1 時間を気にせずいつでもアクセス(24時間受付)
 - Point 2 メルマガで公演情報をいち早くキャッチ
 - Point 3 気になる公演の空席状況をチェック
 - Point 4 WEB先行販売で良席確保(一部公演のみ)
 - Point 5 キャッシュレスでらくらく購入
 - Point 6 購入チケットは自宅へお届け
 - Point 7 ホームページから簡単WEB登録(無料)
- ※メンバーズの方もWEB会員登録が必要です。
<http://www.saf.or.jp> (PCのみ)

■ サポーター会員

(財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蟻川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)エフテック／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／金井大道具(株)埼玉りそな銀行／(株)パシフィックアートセンター／アサヒ印刷(株)／FM NACK5／東京電力(株)埼玉支店／東京ガス(株)／JA/JA埼玉県信連／カヤバシステムマシナリー(株)／(株)タムロン／(株)十万石ふくさや／森平舞台機構(株)／日本データコム(株)／(株)ビルメン／東芝ライテック(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)／ソシエテジェネラルアセットマネジメント(株)／ゲレッツ・ジャパン・スズゼン(株)／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル(株)アルピーノ／国際照明(株)／(株)サイサン 会長 川本彦彦／三国コカ・コーラボトリング(株)／あいおい損害保険(株)埼玉営業部／(株)ショーモン／埼玉スバル自動車(株)／(株)木下フレンド／(株)東玉／桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむら／アイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター／不動開発(株)／ビストロ やまホッカイエムアイシー(株)／埼玉縣信用金庫／(株)栗原運輸／(株)エコ計画／彩の国SPグループ／(有)プラネット／トキタ種苗(株)／関東自動車(株)／日本ビストンリング(株)／(株)クマクラ／(株)デサン／亀井産業(株)／(株)グリーン企画社／(有)中島運輸／(株)国際ビジネス研究所／セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン／太平洋セメント(株)／(株)ピー・アンド・イー・ディレクションズ／朝日新聞 伸光堂さいたま販売(株)／丸美屋食品工業(株)／日立キャピタル(株)／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉建興(株)／(株)日産サティオ埼玉／埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通／(株)アライヘルメット／(株)東和銀行 医療法人 顕正会 蓮田病院／(株)ウイズネット／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドテック(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス H21.2.15現在／一部未掲載

[問合せ先] (財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2009.3-4

平成21年3月15日発行20号(隔月15日発行) 第20号(3月-4月) 発行人:竹内文則 発行:財団法人埼玉県芸術文化振興財団 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500